

回想法センター劇・5月号

平成29年4月25日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
Email pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p wwwpiakaiso.sakura.ne.jp

葉桜が美しい季節が来ました

違いを認めあえる社会

40代、50代、60代と年を重ねてゆくと私たちの体は年相応の体が変わって行きます。年を重ねるごとに動作も行動も判断力も鈍くなって行きます。時間で動く社会の中では罵声を浴びせられることもしばしばです。罵声を浴びせる人もいずれば浴びせられる人になるのにです。好奇心な目で見られ、あの人「認知が入っている」認知症だからと囁く声を耳にしたらどんな気持ちになるだろうか。違いに腹を立て、違いの壁を作るのではなく、一人一人が違いを理解する。違いを認め合い受け止められる社会であって欲しいと願っています。違いを口して壁を作るのではなく、いつか自分も通る道、違って当たり前という、そんな心の準備、心に余裕を持ちたいと思っています。

認知症を正しく理解し認知症への偏見を取り除きたい。認知症になってもできることは沢山あります。残された機能を生かして人の役に立ち、人に必要とされたい。そして、住み慣れた我が家で、地域で暮らしてゆきたい。そんな差別や偏見の無い社会が来ることを目指す活動を続けて行きます。

高齢者の車の運転

高齢者の交通事故が増え免許の更新にも認知症検査が取り入れられるようになりました。私も、車の運転を始めたのも茨城に越えて来てからです。一番近いスーパーも徒歩20分。病院や医者も徒歩で出かけるには厄介な距離にあり、日常の生活を送るにも車がないと困るところです。路線バスは本数も少なく、タウンバスも乗り継ぎをしないと目的地に行けません。

笑顔屋さんでも『あと何年運転で来るかな?』『免許返したら生活できるかな?』など話題になることが増えてきました。家族のために車がないと生活が成り立たないばかりです。介護タクシーも、年金暮らしには決して安い金額ではありません。お天気に関係なく自宅から目的地に行くにも、ちょっと寄り道が出来るとも車があるからこそ出来ることです。車が当たり前の社会の中で車を手放すことのストレスは大きいです。車を手放しても日常生活が送れる仕組みがあったらと思う私も、便利さを見直し、車無しでも生活できる方法を見つけなければいけないと思うこの頃です。

5月のお知らせ

開催場所 ショッピングセンター **リブラ** 1階

認知症家族会・あおぞら	5月5日(金)	10時30分~12時
うたごえ広場	5月11日(木)	2時から4時
笑顔屋	5月17日(水)	10時30分~12時
川柳カフェ	5月20日(土)	10時30分~12時
笑顔屋	5月23日(火)	10時30分~12時
らんカフェ	5月28日(日)	10時30分~12時
笑顔屋	5月29日(月)	10時30分~12時

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター 080-4209-5708

